

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
ハーベスト医療福祉専門学校		平成20年3月31日		中本敏郎		〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町91-6 (電話) 079-224-1777																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人摺河学園		昭和23年3月31日		摺河祐彦		〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町83 (電話) 079-224-1711																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	理学療法学科(昼間部)		平成21年文部科学省 告示第21号	-																						
学科の目的	医療に携わる人間として必要な教養とコミュニケーション能力を体得して、常に自分で考えながら行動し、成長できる人格形成を促す。また、理学療法士として必要とされる知識・技術・豊かな心を養い、医療分野をはじめとする地域社会に広く貢献できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	3,615時間	1,695時間	660時間	1,260時間	-	-																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
180人		105人	0人	9人	13人	22人																					
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目所定の講義を2/3以上出席しており、成績が60点以上の者を単位認定している。																						
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:4週間 ■冬季:2週間 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	①進級条件は当該年度のすべての科目を修得すること。 ②卒業の条件はすべての科目を修得すること。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者と面談及び生活指導			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動への参加  ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 姫路中央病院等  ■就職指導内容 面接による指導を中心に行う  ■卒業生数 : 42 人 ■就職希望者数 : 33 人 ■就職者数 : 33 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 79 % ■その他 :  (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>②</td> <td>41人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	41人	33人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
理学療法士	②	41人	33人																								
中途退学の現状	■中途退学者 23 名 ■中退率 17 % 平成29年4月1日時点において、在学者137名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者114名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 思い描いている職業ではなかった。  ■中退防止・中退者支援のための取組 将来の自己の理学療法士像の形成。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 奨学金: ①特待生入学試験合格者(初年度)②年度末に審査して、特に優秀な者③年度末に審査して、優秀な者 授業料等減免: ①兄弟姉妹が在籍中に、後から入学した者②大学等を卒業後、本校の理学療法学科に再進学した者(初年度) ③所定の国家資格を有し、本校の理学療法学科に入学した者(初年度) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.harvest-school.com/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実習先や業界団体の役職員、専門の講師を教育課程編成委員として委嘱し、実践的な職業教育の質を保証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会で取り上げられた審議内容は、内容の優先性を考慮して校内委員会および部会、学科会議で審議を重ね、その内容に係わる課題や業務編成等を検討する。最終的には各部署から校長決裁を経て採択する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授(学校経営)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	②
下山 治男	兵庫県理学療法士会前中播磨ブロック長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
岩橋 由梨	有限会社ハーティ(訪問看護ステーション)法人本部部長代理	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
寺元 宏樹	野瀬病院 リハビリテーション科 科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
田中 洋三	はりま総合福祉評価センター 理事長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
吉田 弘子	ヘルパーステーションだいたう 介護福祉士	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
萩原 勝義	幼保連携型認定こども園萩学園園長、全国認定こども園協会理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
正木 竜哉	幼保連携型認定こども園瑠璃こども園園長、姫路市保育協会会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
福田 忠浩	姫路薬剤師会 副会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
岸田 憲治	ゴダイ株式会社(ドラッグストア)開発本部長兼経営企画室長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
中本 敏郎	ハーベスト医療福祉専門学校 校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
小寺 正人	ハーベスト医療福祉専門学校 理学療法学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
北野 実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
黒田 利幸	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
竹中 有	ハーベスト医療福祉専門学校 教務部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)年2回、10月と3月

第1回 平成29年10月18日 9:00～10:00

第2回 平成30年3月15日 9:00～10:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

課題:学生への専門士像の構築を早期に行い、職業人としての目標を明確化すること。

対策:1年時に行う理学療法実習の学外実習を5日間から3日間に短縮し、残りの2日間を学外実習で学んできた理学療法士の働き方等をもとに理学療法士像の構築を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
① 企業で求められる人材として必要な知識及び技術を確認し、到達目標を設定する。 ② 企業等の関係者の協力を得て、学生に知識と技術の習得を推進し、望ましい理学療法士像を形成する。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容		
理学療法に関わる知識や技術の習得および臨床推論力について、委員による学内講義や演習、委員が所属する施設実習などを行い、委員を含めた教育活動と評価を実施している。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価に関する知識と技術の修得	野瀬病院
理学療法実習	医療面接の実施とバイタルサインの実施確認	ハーティ訪問看護ステーション
臨床実習Ⅰ	理学療法評価に関する一部を経験する	荻原整形外科病院、姫路第一病院、石川病院
臨床実習Ⅱ	理学療法評価に関する経験及び治療計画の立案	荻原整形外科病院、姫路第一病院、石川病院
臨床実習Ⅲ	理学療法における治療計画の立案・実施	荻原整形外科病院、姫路第一病院、石川病院
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針		
研修を開催するにあたっては、本校の教育理念を十分に認識し、業務遂行に必要な知識と技能を習得させ、指導力の向上を図るものとする（職員研修規程第2条）。またこれらを目的とした研修全般については、過去の実績および今後必要な研修等を考慮し、研修委員会が審議、決定する。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
平成29年5月12日から14日、日本理学療法学会大会に教員3名が参加し、教育を取り巻く現状と課題について見識を深めた。 平成29年6月10・11日、7月15・16日、8月26・27日、全3回の体表解剖セミナーに教員2名が参加し、骨・筋の触察法について学ぶとともに、理学療法教育における人体解剖学実習の在り方を学んだ。 この他、各教員は週4時間の臨床研修に参加した。		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
平成29年8月21日から9月8日、理学療法士養成施設教員等講習会に2名が参加し、教育原理や教育心理学、教育方法学など全15科目（132時間）を履修した。 平成29年10月20日から21日、日本理学療法士協会全国学術研修大会5名が参加し、新しい分野の知識を得るとともにその教授ポイントについて学んだ。 平成29年11月26日、日本理学療法教育学会に2名が参加し、臨床実習教育の進め方や協同学習、課題解決型学習の進め方を学んだ。		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
指定規則改定に伴う新たな分野、科目に対する理解と習熟を最重要課題と位置づけ、主に以下の研修参加を計画する。 平成30年7月29日、予防理学療法研修会（基礎編）に3名が参加し、予防理学療法の基礎を学習するとともに、予防理学療法を享受できる知識を習得する。 日本理学療法学会大会には、新カリキュラムの科目担当を考慮して、分科会に3名が参加する。 体表解剖セミナー（平成30年度は年4回を予定）に2名が参加し、体表解剖実習に対応する指導力を得る。 この他、各教員は週4時間の臨床研修に参加する。		

②指導力の修得・向上のための研修等

平成30年8月20日から9月8日、理学療法士養成施設教員等講習会に1名が参加し、教育倫理や教育指導法について全15科目(132時間)を履修する。

指定規則改定に対応する臨床教育法について、本教育法の第一人者による校内講習会を開催する。

平成30年5月25日から26日、日本理学療法士協会全国学術研修大会に3名が参加し、担当分野の知識を得るとともに、その教授ポイントについて学ぶ。

平成30年11月3日・4日、日本理学療法教育学会に2名が参加し、実践力を高める教育方法について学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

実習先や業界団体の役職員、地域の代表、卒業生、保護者等を学校関係者評価委員として委嘱し、学校運営の質を保証する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

取り組み内容全般に評価をいただきながらも、学生の主体性が乏しいと多くの意見をいただいた。これに対して、学年を超えた交流や共同学習の機会を取り入れ、学生の主体性やコミュニケーション能力の向上を図っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授(学校経営)	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	有識者
岩橋 由梨	有限会社ハーティ(訪問看護ステーション) 法人本部部長代理	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
田中 洋三	はりま総合福祉評価センター 理事長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
萩原 勝義	幼保連携型認定こども園萩学園園長、全国認定こども園協会理事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
岸田 憲治	ゴダイ株式会社開発本部長兼経営企画室長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
寶谷 亮介	兵庫県播磨高等学校 副校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業
田中 広一	南駅前町 自治会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	自治会役員
中西 真利	保護者	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	PTA
河村 幸樹	同窓会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
中本 敏郎	ハーベスト医療福祉専門学校 校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	
黒田 利幸	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
小寺 正人	ハーベスト医療福祉専門学校 理学療法学科長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	

益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科 長	平成29年4月1日～平成31年3 月31日(2年)	
北野実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学 科長	平成29年4月1日～平成31年3 月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ) 5月中に掲載する

URL:<http://www.harvest-school.com/>

- ・企業等との指導者会議で、教育課程表などとともに配付する。
- ・学生募集対象高校の進路担当部に、募集資料とともに配付する。

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

実習先や連携を行っている一部の施設の代表者に出席していただく委員会を設置し、情報提供に関する質を保証する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

当校ホームページの学校案内において「職業実践専門課程」および「学校評価」に関わる実施内容を掲載する。

URL <http://www.harvest-school.com/school/index.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科(昼間部)) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学に関わるできるだけ幅広い領域の特に重要と思われる事項について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			生命倫理学	生命倫理に関わる諸問題を広く浅く取り扱う。	1前	30	2	○			○				○
○			研究法概論	医療分野における研究の必要性を学習した上で、基礎研究および臨床研究に必要な、研究モデルの作成・データの解釈について学んでいく。	2後	30	2	○			○			○	
○			情報処理科学	PCによるレポート作成に必要なソフトウェアの使い方を習得する。	1前	30	1		○		○			○	
○			健康科学Ⅰ	自分自身の健康に関心を持ち、自ら適切な健康管理を行うための基礎知識の習得を目指す。健康への理解を深めることで、人々の健康回復・保持増進にかかわる支援の必要性を理解する。	1前	30	2	○			○				○
○			健康科学Ⅱ	自分自身の身体のケアとコンディショニングをスポーツやトレーニングを通して経験する。また障害者スポーツを体験する。	1後	30	2	○			○			○	
○			統計学	理学療法の臨床効果ならびに科学的実践に結びつけるための論文の読解力を培う。統計学の基本、基本的統計から統計の応用的活用について学習する。	2後	30	2	○			○				○
○			英語	病院内のいろいろな場面での英会話を通して、英文法、発音、読み、書き、リスニング、スピーキング等を学び、総合的な英語力の向上をめざす。	1前	30	2	○			○				○
○			医学英語	医療・福祉施設では、医学英語が使用される事が多い。将来、理学療法士として、英語文献の読解、国際社会での研究発表では必須である。	1後	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	人体の基礎構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1前	60	4	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	人体の基本構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1後	30	2	○			○			○	
○			解剖学実習	解剖学Ⅰで学んだ人体の基本構造を復習し、より理解を深める。	1後	45	1			○	○			○	
○			生理学Ⅰ	人の身体の働きを学ぶ学問であり、健康や病気を理解するためには欠かすことのできないものである。理学療法士に必要な身体生理を学ぶ。	1前	60	4	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	人の身体の働きを学ぶ学問であり、健康や病気を理解するためには欠かすことのできないものである。理学療法士に必要な身体生理を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	

○		生理学実習	生理学は人の身体の働きを学ぶ学問である。生理学実習では、生理学で学んだ知識に関して、実体験を通じて理解を深める事を目的とする。	1後	45	1			○	○						○
○		運動学総論	運動学の知識は理学療法士の基盤である。運動学の基礎を理解し、力学的観点から関節運動や動作を考え、客観的に説明できる能力を身につける。	1前	30	2	○			○						○
○		運動学各論	各関節の運動の特徴を知る。正常動作の基本を学ぶ。	1後	30	2	○			○						○
○		運動学実習	1年時に学習した基礎を活かして、実際に運動・動作の分析を行う。機器を使用して、筋活動などを視覚的に確認し、今後の臨床に活かす。	2前	45	1			○	○						○
○		機能解剖学	解剖学の知識をもとに、実際に体表から主たる骨、筋、神経、血管の触知を行えるようになることを目的とする。	1後	60	2			○	○						○
○		人間発達学	1.人間の胎児期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。2.身体や運動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。	1前	30	2	○			○						○
○		臨床心理学	「こころのケア」とは何か、それを必要とする人とどのように関わるか、その基本的態度を考える事を狙いとしています。	1後	30	2	○			○						○
○		病理学	医療従事者を目指す上で、必要な様々な疾病の原因及び、その病態について理解を深める。	1後	30	2	○			○						○
○		障害学Ⅰ	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを目的とする。	2前	30	2	○			○						○
○		障害学Ⅱ	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを目的とする。	2後	30	2	○			○						○
○		整形外科Ⅰ	整形外科疾患の特徴と診断方法、治療を学び、理学療法との関連について理解する。	1後	30	2	○			○						○
○		整形外科Ⅱ	整形外科疾患の特徴と診断方法、治療を学び、理学療法との関連について理解する。	2前	30	2	○			○						○
○		内科学Ⅰ	実務の現場では、様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1前	30	2	○			○						○
○		内科学Ⅱ	実務の現場では、様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1後	30	2	○			○						○
○		小児科学	小児科学とは何かを理解する。また、小児科領域における理学療法の役割を理解する。	1後	30	2	○			○						○
○		神経内科学Ⅰ	本講義では、神経系の解剖や生理、神経症候学などの総論について概説する。	1後	30	2	○			○						○
○		神経内科学Ⅱ	脳出血、脳梗塞、パーキンソン病、筋萎縮性硬化症、失調症、末梢神経損傷、脊髄小脳変性症など神経・筋系に起因する運動機能障害の成因、病態に関する知識について概説する。	2前	30	2	○			○						○
○		精神医学	精神医学への興味、精神障害者への理解を深めることを目的とする。	1前	30	2	○			○						○





○		運動器疾患理学療法	運動器とは身体を支え、動かす器官で骨、筋、関節、靭帯、腱、脊髄、末梢神経の事を言う。その運動器の障害と理学療法を学習する。	2前	30	1		○	○	○								
○		スポーツ疾患理学療法	スポーツ疾患における理学療法、アスレティックリハビリテーションを学習する。また各スポーツにおける競技特性を学習し、スポーツ傷害原因を考える。	2後	30	1		○	○	○								
○		脳血管理学療法Ⅰ	脳血管障害は中枢神経系がダメージを受けるため障害象は複雑化を極める事が多い。脳血管障害という疾患は理学療法の現場で最も相対する機会の多いこともあり総合的な理解を目指す。	2前	30	1		○	○	○								
○		脳血管理学療法Ⅱ	脳血管障害の理学療法評価及び基本治療(理学療法)について学習する。	2後	30	1		○	○	○								
○		神経・筋障害理学療法	臨床場面で接する機会の多い神経筋の病態と理学療法について教授する。	2前	30	2	○		○	○								
○		発達障害理学療法	小児理学療法の概要について理解を深めると同時に、理学療法を実施するための小児理学療法評価、正常発達、さらに理学療法プログラム及び、基本的な治療技術を学ぶ事を目的とする。	2後	30	2	○		○									○
○		内部疾患理学療法	内部疾患の理学療法の評価と治療について臨床現場をイメージできるように講義していく。	2後	30	2	○		○									○
○		生活環境論	この授業では、障害者を取りまく環境を十分に把握し、障害者の身体状況や精神的側面に配慮したよりよい環境整備の方法や関連する法的諸制度について教授する。	2前	15	1	○		○									○
○		地域理学療法学	地域における理学療法士の役割を知る。保険制度を理解する。	2後	30	2	○		○									○
○		保健医療福祉制度論	制度を知ることで、理学療法士として働くことを理解し、制度の枠の中で考えていく視点と制度の枠を超えて考えていく視点をつけていく。	2後	30	2	○		○									○
○		理学療法実習Ⅰ	実際の臨床の場の雰囲気を知るとともに、対象者とのコミュニケーションのとり方について体験する。	1前	45	1			○	○								○
○		理学療法実習Ⅱ	1年次において履修した医療面接ならびに検査・測定技術を、臨床実習指導者の指導の下で体験する。	1後	45	1			○	○								○
○		理学療法実習Ⅲ	理学療法現場の見学とカルテからの情報収集、検査・測定より得られたデータを学内に持ち帰り、対象者の障害像を構築し、対象者の問題点を把握することができる。	2前	45	1			○	○								○
○		臨床実習Ⅰ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	2後	135	3			○	○								○
○		臨床実習Ⅱ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	3前	135	3			○	○								○
○		臨床実習Ⅲ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3前	360	8			○	○								○
○		臨床実習Ⅳ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3後	360	8			○	○								○

○		臨床理学療法演習Ⅰ	理学療法実習Ⅰの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1前	30	1		○	○	○				
○		臨床理学療法演習Ⅱ	理学療法実習Ⅱの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1後	30	1		○	○	○				
○		臨床理学療法演習Ⅲ	学習してきた評価を実践し、問題点の抽出までの流れを理解する。	2前	30	1		○	○	○				
○		理学療法形成論Ⅰ	前期は、自己紹介および臨床に必要な面接の方法とレポートの書き方を理解する。後期は、評価技術の練習および解剖・生理学の予習を中心に行い、理解を深める。	1	30	2	○		○	○				
○		理学療法形成論Ⅱ	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	2	30	2	○		○	○				
○		理学療法形成論Ⅲ	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	3	30	2	○		○	○				
○		ホスピタリティデザイン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。	1前	30	1		○	○	○				
○		コミュニケーション学	医療・福祉の現場で求められる“心の通い合う人間関係”を構築するためのノウハウやスキルを身につけることを目的とする。	1後	30	1		○	○	○				
合計				74科目	3,615単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
すべての科目を修得すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。